JART企画④

東北地域業務改善推進委員会企画

「働き方改革」診療放射線技師の多様な働き方について考える

—フリーランス化現象をリサーチする—

座長集約

宮城厚生協会 泉病院　前谷津 文雄

「働き方改革」推進による兼業・副業やテレワークなど時間と場所を選ばない「雇用関係によらない働き方」が労働市場の流動化として着目されている。医療界でも出産・育児や介護など時間的な制約や自らの意思で働きたい選択肢として、フリーランス化ともいえる雇用形態が職種により増加しているが、こうした雇用の柔軟性、労働市場流動化について放射線技師の現場に焦点をあてた企画により、働き方改革による業務改善について職場、個人で考えていただくことを狙いとした。

〈注意〉このセッションでは、法的に放射線技師業務は労働契約（パート・有期等）であり、常態として特定雇用主に所属せず都度雇用契約による従事を「準フリーランス放射線技師」とした。

シンポジウムでは、準フリーランス放射線技師2名より報告をいただいた。長谷川志賀子技師からは、準フリーに至る経験、転職支援としても重要であるが知らないと活用できない失業保険制度について、マンモグラフィー等のスキルや経験知識を啓発する自由な活動を模索していることなどが話され、齊藤貴憲技師からは、MRI関連業務従事の経験からその技術を活かした働き方、既存職場での育児・ 介護、年休取得、宿日直等負担軽減等での職場環境改善の代替要員需用が多い現状から、職業紹介事業を立ちあげた経過等が話された。二人とも自分らしさを確保しつつ、スキルを活かす働き方の実例報告であった。

基調講演では、社会保険労務士の佐藤富蔵先生から「働き方改革で変わる雇用制度」フリーランス化現象をリサーチするというタイトルで講演をいただいた。フリーランス類似の働き方の背景として、終身雇用・職能経験給から職務給（仕事内容評価）の流れ、自己実現、共働き、育児、介護等のワークライフバランスの必要性、働き手、雇用側それぞれメリットデメリットなど解説された。また、正規、非正規、フリーランス区分では、放射線技師業務はチーム医療を支えるためフリーランス（請負）は該当せず同一労働同一賃金に留意すること、診療放射線技師は医療一体業務から人材派遣は原則不可であり、働き手は雇用契約限定となることから、自己PR 職務経歴（高度スキル、対人能力）がカギとなるなど、放射線技師雇用の多様化、柔軟性の背景から、抑えておくべき労働法制での要点について解説をいただいた。

総合討論では、フリーランス化が進行する中で、働き方改革の柱である、年休促進、長時間労働抑制、同一労働同一賃金原則をどのように展開すべきか、職場管理者はどのような点に留意すべきかなど、委員会であらかじめ準備した質問に佐藤先生が解説する形でテーマへの深堀を試み、更に会場から、非正規職員を医療安全の点でどう活用していけばよいか、雇用情報収集などマッチングに対するコメントなど、関心の高さからの討論がなされた。

座長まとめでは、「働き方改革」は、喫緊課題で放射線部門でも例外ではないが、その一方「医師の働き方改革」にもとづくタスクシフト／シェア完全実施によっては、現場余力が不足するとの不安の声も聞こえてくる。業務改善推進は「病院全体」「部署」「個人」の三層構造の課題でもあり、今回はフリーランス化というトレンドにおいて「部署」「個人」に焦点をあて、なんらかの解決へのヒントとなればを意図とした。病院、部門の中長期ビジョン、政策を前提に「ワーク・ライフ・バランス」「技術・知識の研鑽」「人材育成」促進をはかり、働き方改革の目標である、「働きやすさ」と同時に「働きがい」による労働環境と質改善をすすめていただくことに期待したい。

最後に、東北地域業務改善推進委員会委員長成田より、本委員会体制の紹介と今回の企画を契機に今後の委員会活動の抱負が述べられ本シンポジウムを終了した。